

機関番号：32677

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530484

研究課題名 北京オリンピック報道～テレビニュースは何を伝え、視聴者の意識はどうか～

研究課題名（英文） Japanese TV Covers the Beijing Olympics: News Programs and the Changing Audience Attitudes towards China

研究代表者

小玉 美意子 (KODAMA MIIKO)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号：10231482

研究成果の概要（和文）：

本研究は、2008年8月に行われた北京オリンピック報道によって視聴者の対中国意識がどのように変化したか探ることを目的とし実施された。

調査の結果、テレビニュース視聴者の中国（人）についての認識は、オリンピック前後で部分的に変化があったことが明らかとなった。中国（人）イメージが変化した人は直接的な経験（渡航経験や友人・知人）が無い、オリンピック前に中国に対しネガティブな印象を持っていた人がオリンピックを契機に良い印象を持ったようである。このような傾向を持つ人は若い世代が多く、今後テレビの報道内容によって、若者は中国（人）イメージが変化する余地が示唆された。

中国（人）の印象が変化しにくい人は、メディア接触によって先有傾向の強化・補強が行われていることが推察された。取り上げられた出来事がインタビュー対象者自身の中国経験やイメージと結びつけられていたからである。

テレビニュースは中国を発生地とする報道が全体の38.1%を占め、中国報道の議題設定や放送局別の傾向が明らかになった。視聴者はオリンピックの競技ニュースというよりは、オリンピック開催前、期間中の関連報道から中国（人）に関する情報を得ていたようである。またテレビをよく視聴した人は、新聞、インターネットなどに多く接した人よりも肯定的イメージへの変化がみられた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to explore the changes of Japanese attitudes towards China and the Chinese after being exposed to information connected to the Beijing Olympics and its news reports through mass media. We put focus on “decoding” the Beijing Olympics. And this study used an online survey to collect data.

Japanese people were very much interested in the Beijing Olympics. They spent much time watching news about the Olympics and Olympics-related matters. Japanese broadcasting spent more time on Chinese news during and before the Olympics than usual, according to our survey. International sports events always attract peoples’ attention, influencing their respective audiences’ attitudes in various ways.

We know that the influence of media over people cannot be measured easily. Nevertheless, as far as our research is concerned, Olympics coverage and related news on China, generally speaking, had an overall positive influence on understanding/appreciation of present day China and Chinese as reported by our respondents. The media event of the Beijing Olympics presented Japanese with a valuable opportunity to modify long-held stereotypical preconceptions about China, more positive changes were found in two aspects of our surveys, namely, people’s attributes and ideological orientation. The self-categorized “television watchers” in our survey reported having a better image on China in terms of ideological orientation, with the “National character”-oriented sub-group of the “television watchers” reporting image/attitude shifting in a more positive direction.

Encouraging signs were also observed among members of the “Economy & society” and “Power of the state” groups. Even the “History & culture” -oriented group, which already reported good pre-testing evaluations of China/Chinese, displayed an observable positive shift in the test condition survey.

#### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学：社会学

キーワード：ニュース・テレビ・中国・オーディエンス・イメージ・オリンピック

#### 1. 研究開始当初の背景

国際テレビニュース研究会では、これまで国際的なテレビニュースの内容分析研究を中心にさまざまなニュース関連研究を行ってきた。

2008年8月に中国北京市でオリンピック競技が行われることが予定されていたので、2006年頃からテレビニュースと人々の中国観の関係について調査する方法を模索してきた。単純な影響研究や受容研究を越えたところで、ニュースが人々にどのように理解されるかという問題、言い換えればメディア内容と人々の意味の構築との関連を多角的に明らかにしたいという研究動機があったからである。

そこで、従来のテレビニュース内容分析を行う一方、オリンピックの前と後に一般の人々を対象にパネル調査を行ってどのように対中国観が変化したかを調べるとともに、フォーカス・インタビューによりコーホートによるメディア接触や歴史観の違いが意見形成にどのような違いを生じさせているかを浮き彫りにしたいと考えた。

メディアを通じてある国や地域、そこに暮らす人々についての情報がどのように伝えられるかは、人々の理解や意見に影響と関連を持つことは間違いない。本調査だけではそれに対する十分な答えを導き出すには至っていないが、それに至る一つの道を開こうと試みた。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つである。

(1) 日本のテレビニュースが北京オリンピックの際にどのような放送を行っているか。

(2) オリンピック前に持っていた中国(人)

に関する知識・イメージが、北京オリンピック関連報道等によりどのように変化したか。

(3) 人生経験やメディア接触のあり方が意識形成とどのような関係があるか。

#### 3. 研究の方法

本研究は、メディア内容と人々の中国観が、どのように関連しているかを以下の5つの調査方法を組み合わせて、多角的に明らかにしようと試みた。それは、テレビニュース内容分析、オリンピックの前後に実施したインターネットによるアンケート調査、フォーカスグループ・インタビュー、中国中央電視台のオリンピック報道関係者へのインタビュー調査、日本の中国報道関係者への調査である。

#### 4. 研究成果

上記5調査の結果、テレビニュース視聴者の中国や中国に住む人々についての認識は、オリンピック前後で部分的に変化があったことが明らかとなった。変化する・しない要因として個人の属性(年齢、性別)、経験(中国渡航経験、友人・知人の有無)、メディア接触が推測される。

中国(人)イメージが変化した人は直接的な経験(渡航経験や友人・知人)が無い(あるいは少なく)、オリンピック前に中国に対しネガティブが印象を持っていた人がオリンピックを契機に良い印象を持ったようである。特にフィーチャー・ストーリーに影響を受けた人がいたことは注目し得る。このような傾向を持つ人は若い世代が多く、今後テレビの報道内容によって、若者は中国、そして中国人イメージが変化する余地が示唆された。

一方、中国への印象が変化しにくいグルー

プは、メディア接触によって先有傾向の強化・補強が行われていることが、年齢の高い世代、若い世代に共通して推察された。たとえば開会式における少女の独唱が「ロバク」であった事件など、取り上げられた出来事の内容や理由がインタビュー対象者自身の中国経験やイメージと結びつけられていたことである。

テレビニュースは中国を発生地とする報道が全体の38.1%を占めたが、テレビに接触した人々はオリンピックの競技ニュースというよりは、オリンピック開催前、期間中の関連報道から中国・中国人に関する情報を得ていたことが推測される。そしてテレビをよく視聴した人は中国に関する多様な情報に触れ、新聞、インターネットなどに多く接した人よりも肯定的イメージへの変化がみられた。

また、テレビニュース内容分析によって中国報道の「ニュース項目」や取り上げ方が明らかになり議題設定や放送局別の傾向が明らかになった。

今後の課題は、大きく3つある。第一に、テレビニュース以外の中国関連報道の一般的傾向を探ること、第二に国際放送とスポーツイベントの報道のあり方を考察すること。そして、報道内容(内容分析)とオーディエンス(アンケート調査とフォーカスグループ・インタビュー)への影響がどのような関係があるかについて総合的考察を行うことである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 金山智子, 2009, 「V 北京オリンピック報道と中国イメージの変化～フォーカスグループインタビューの結果と考察～」『武蔵大学 総合研究所紀要』第18号:69-83.
- ② 小玉美意子, 2009, 「II オリンピック前後における視聴者の対中国意識調査2 “中国” から連想する事物と中国評価の関連性」『武蔵大学 総合研究所紀要』第18号:29-37.
- ③ 小林直美, 2009, 「IV 北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース内容分析2～開会式の内容分析～」『武蔵大学 総合研究所紀要』第18号:57-67.
- ④ 中正樹, 2009, 「III 北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース内容分析1～ニュース内容の量的分析～」『武蔵大学 総合研究所紀要』第18号:39-56.
- ⑤ 日吉昭彦・黄允一, 2009, 「I オリンピック前後における視聴者の対中国意識調

査1 インターネット調査の結果報告」『武蔵大学 総合研究所紀要』第18号:7-28.

- ⑥ Masaki Naka and Naomi Kobayashi, 2010, ‘A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony’. *The International of the History of Sport* Vol.27, Nos 9-10, June - July 2010, 1781-1796.

[学会発表] (計6件)

- ①
- 1) Masaki NAKA, “Television News Content during the Beijing Olympics”
- 2) Miiko KODAMA, “Negative and Positive Images of China before and after the Beijing Olympics: An Internet Audience Survey”
- 3) Naomi KOBAYASHI, “Television News Coverage of Beijing Olympics’ Opening Ceremony”
- 4) Yunil HWANG, “Attitudes towards China before and after the Beijing Olympics: An Internet Audience Survey”

Academic Meeting : Research Group on International Television News (Japan) & Communication University of China (China) 2009年9月 於: 伝媒大学 (Communication University of China), International Communication Research Center

② 黄允一・小林直美 『テレビニュースにおける北京オリンピック報道と視聴者の対中国意識の変化』

2009年10月 日本マス・コミュニケーション学会 於: 慶應義塾大学日吉キャンパス

③ Masaki Naka and Naomi Kobayashi, “A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony” (ポスター発表)

2010年9月 ‘The 18<sup>th</sup> EASM (European Association for Sport Management) Conference 於: チェコ共和国

[図書] (計4件)

- ① Hiyoshi, Akihiko and Hwang, Yun’ il and Kodama, Miiko, “Japanese attitudes towards China before and after the Beijing Olympics: An internet survey for decoding the Olympics” Luo Qing and Giuseppe

- Richeried., *Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwide (Sport in the Global Society - Historical perspectives)*, Routledge. (2011年8月刊行予定)
- ② Kodama, Miiko, 2011, “Surveying Japanese media usage during the Beijing Olympics as a measure of audience attitudes toward China and the Chinese” Luo Qing and Giuseppe Richeried., *Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwide (Sport in the Global Society - Historical perspectives)*, Routledge. (2011年8月刊行予定)
- ③ Naka, Masaki and Kobayashi, Naomi, 2011, “A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony” Luo Qing and Giuseppe Richeried., *Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwide (Sport in the Global Society - Historical perspectives)*, Routledge. (2011年8月刊行予定)
- ④ Suzuki, Hirotaka, 2011, “The Long and Winding Road: Beijing Olympics was a Mere Mile for Japan” Luo Qing and Giuseppe Richeried., *Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwide (Sport in the Global Society - Historical perspectives)*, Routledge. (2011年8月刊行予定)

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小玉美意子 (Kodama Miiko)  
武蔵大学・社会学部・教授  
研究者番号：10231482

### (2) 研究分担者

小田原敏 (ODAWARA SATOSHI)  
武蔵大学・社会学部・教授  
研究者番号：60268323  
アンジェロ・イシ ([Angelo Ishi](#))  
武蔵大学・社会学部・准教授  
研究者番号：20386353

### (3) 連携研究者

吉田文彦 (YOSHIDA FUMIHIKO)  
東海大学・文学部・教授  
研究者番号：60210720  
音 好宏 (OTO YOSHIHIRO)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：60266062  
鈴木弘貴 (SUZUKI HIROTAKA)  
十文字女子学園大学・社会情報学部・  
准教授  
研究者番号：40337639  
金山智子 (KANAYAMA TOMOKO)  
駒澤大学・グローバル・メディア・スタデ  
ィーズ学部・准教授  
研究者番号：40383971  
中 正樹 (NAKA MASAKI)  
静岡大学・情報学部・准教授  
研究者番号：70388685  
日吉昭彦 (HIYO SHI AKIHIKO)  
文教大学・情報学部・専任講師  
研究者番号：80383313

### (4) 研究協力者

黄 允一 (HWANG Yun' il)  
東京家政大学・非常勤講師  
小林直美 (KOBAYASHI NAOMI)  
武蔵大学・総合研究所・奨励研究員  
沈 成恩 (Shim Sungeun)  
東北新社  
章 蓉 (Zhang Rong)  
東京大学・大学院・博士課程